

ファイザー名古屋工場 空調設備の省エネルギー提案

ファイザー社との最初の出会いは1990年代、シスカヘネシーで一諸に働いた、AKFのBryan Atkinson氏からの問いあわせであった。愛知県知多郡武豊町にファイザー社が建設の新築工場の設備関係機器の見積もり金額を査定依頼で会った。それは業務委託というよりも相談事に近い参考意見を求めるものであった。それから時を経て2012年ファイザージャパンの設備システムの現状の機能を調査、検証する業務を受託した。課題は短期の利益向上を目指した空調設備のランニングコスト削減を検討するもので、更新、取り換えを行わないで、調整、修繕、部分取り換え等で、保守の合理化、効率化を図るものであった。この年、ファイザー社のリードCEOが来日して、日本での15新薬の発売を目指す記者会見で述べた。バイアグラで世界を征服したのちの、コレステロール用のスター薬、リピートルの特許切れの販売減を意識した背景は、既存の工場の生産性を見直しの調査、検証は自然な成り行きでもあった。ファイザー名古屋工場では、一見して、劣化によるシステムの効率低下は、既存工場随所で観察された。アメリカニュージャージー州Peapackでの打ち合わせでは、会社に入場するに際し、パスポートの提示と、顔を4面から撮影された後に、許可されるという厳しさであった。一方、日本では工場入場の厳しさもなく、来日の、一緒に仕事をするアメリカのファイザー社のスタッフはAnthony (Tony) Carcich氏以下、明朗、快活で、名古屋市内の料亭で名古屋コーチンを赤みその鍋で味わう会食では、国際親善そのもの、和気あいあいの雰囲気であった。

1. 目的

標記工場の第1、第5、第6製剤工場における、短期の利益向上を目指した空調設備のランニングコスト削減を検討する。具体的には新たな投資（更新・取替え）を出来るだけ行わないで、調整、修繕、または部分取替え等の運転・保守の合理化、効率化により、二次側の空調設備の省エネルギーを目指す。

2. 検討方法（業務概要）

2.1 実施項目

- 1) 既提案（IPS省エネルギー提案書）を基にして、それに対する見解と効果予測を提示する。
- 2) 現地調査・確認を行う
- 3) 工事業者・メーカー・運用管理者に対するヒヤリング
- 4) 机上調査【既存図面・記録の収集／設備概要・システムの把握】
- 5) 以上の情報とりまとめ・分析・評価

